



## 「コロナ禍後のキャリア教育」

株式会社宮崎銀行日向支店 支店長 国部 直



未だ出口が見えてこないコロナ禍において徹底した感染防止対策が講じられ、その結果、皆さんの日常生活においても様々なご苦労やご負担が続いていることと思います。このコロナ禍を克服した先には、以前の常識や慣習が通じない新常态(ニューニュートラル)、所謂afterコロナ、withコロナを見据えた取り組みが急速に広がり、日常生活の在り方、働き方改革、IT技術革新のスピードアップ等、社会構造の大きな変化をもたらされると予想されています。そしてこの動きは教育の現場においてもあらゆる場面に広がりつつあり、当然にキャリア教育の場面においても社会構造の変化を想定したプログラムの見直し等が急務になってくると感じています。「私たち大人が未来を背負う子供たちにどのような将来像を魅せてあげられるか」この事を真剣に考えていかなければなりません。その為にも、まずはコロナ禍を乗り越えるための取組みに最善を尽くしつつ、自分なりの答えを見つけていく所存です。

## 「自立」

日向市立日知屋小学校 校長 薄木 修



「自立」という言葉をよく見聞きする。以前勤務していた学校の保護者と久しぶりにお会いしたときも「うちの子は自立して〇〇で働いています」や「まだ親を頼ったままで、自立できませんわ」という話になったことがあった。

私がキャリア教育を意識しはじめた頃、「将来どんな仕事をしたい?」と12歳の子ども達に、単にあこがれや夢だけで問いかけたこともあった。それが悪いとは思っていないが、「自立」がぬけていた。

自分自身も教員となった日から自立していたかというところではなかったと思う。

本校の子ども達が将来自立した社会人・職業人となるのはまだ先のことではあるが、本校の先生方とのお手伝いをしていきたい。

## 「日向市在住の大人みんなで」

日向市立細島小学校 校長 吉弘 哲章



キャリア教育の目的は、子どもを自立した社会人・職業人に育てることである。その目的を達成するために、学校教育だけでは限界がある。そこで、日向市在住の大人みんなで取り組むことが重要であると考えられる。

人は、この世に生を受けると、乳幼児期には親から食事や排せつの世話をしてもらいながら育てられる。少年期になると、家族との絆を大切にしながら、先生や友だち、地域の方など、家族以外の社会の営みの中で育てられる。このとき、私たち大人は子どもたちへ具体的に人生観や職業観を教える必要がある。学校の先生だけに頼るのではなく、全ての大人が子育てにかかわることで、子どもたちは様々な知識や経験を積むことができる。そのような取組を継続していくことで、正しいマナーやエチケット、魅力的な人生観や職業観を身に付けることができると考える。

早速今日から、日向市を担う子どもたちのために、今以上に、日向市在住の大人が一丸となって子育てを積極的にかかわっていただきたいと願う。

## 「日向商工会議所女性会との出会い」

日向商工会議所女性会 会長 上村 由実子



商売として立ち上げた建設機械の修理販売をサポートするために全勢力を費やして早や22年。

その中で、子育てや女性としての生き方をお手本として見せていただいた方との出会いがありました。挨拶の大切さ、ふれあいの大切さ、そして子供の進学の導き、一つ一つご自分の姿勢で私を導いて下さった前会長の山本恵子さんです。優しく見守り指摘も的確にして下さいます。そんな私を女性会に誘っていただき、今の会長としての私の後押しをして頂きながら、素晴らしい女性会の皆さんとの出会いの場もつくって頂きました。

そのお陰で会員の皆さんと連携を取りながら、行事に一つ一つ大切に取り組み、無事終わらせて行っていることの充実感を今まさに感じています。

小学校から中学、更には高校、大学へと進まれる皆さん方も、これから先いろんな人との出会い、いろんな学びを大切にしながら成長して欲しいと願うところです。

彼女と出会って25年、私もこれから一生勉強のつもりで、与えられた課題をしっかり受け止め、家事に仕事に、そして女性会の皆さんと共に「出会い」を大切にしながら、更に前進して行きたいと考えています。



## 令和2年度 第1回「14歳のよのなか挑戦」 協力事業所の会 開催される

去る6月19日(金)に「14歳のよのなか挑戦」(社会体験学習)にご協力いただいている受入れ事業所の皆さん、計画をされている中学校、また宮崎大学他、関係する機関から31名の参加をいただき第1回の会合が開催されました。



◀会長挨拶の様子

取組を実施する中学校については、従来の単なる「職場体験」から、課題解決のための「社会体験」へとステップアップさせ、働くことの意義を考える中で、  
①気づく……なぜそうになっているのか？  
②仕事を知る……どのように地域貢献しているのか？  
③働く人を知る……どういう思いでその仕事をしているのか？など、体験活動を行いながらその課題について自分で考え、答えを見つけるという流れになっています。



▲大王谷学園の計画説明



▲東郷学園の計画説明

受入れ側についても、3日から4日間生徒を預かるということで、「安全の面をどう考えるのか?」「企業側としては体験させるメニューが難しい」等々、活発な意見が交わられていました。しかし、今年度はコロナ騒動に見舞われ、やむなく中止せざるを得なくなりましたが、来年に向けての実りのある会合となりました。



▲意見交換の様子



▲副会長閉会の挨拶

### コーディネーター



## 「夢プロジェクトを通して」

日向市キャリア教育支援センター  
コーディネーター 富山 隆志 (JICA九州国際協カアドバイザー)

8月20日木曜日10時～12時まで商工会議所で国際協力講話。美々津中3年生の橋本煌祐君から事前に11項目の質問あり。将来は農業分野で青年海外協力隊となり、発展の途上にある国々を豊かにする夢を語ってくれた。

質問の中には、なぜ国際協力をしているのか。外国から見た日本の課題は何か。外国から学ぶべきことは何か。活動を通して驚いたことは。日本での知識が外国で通用しないときはどうしたのか。途上国で困ったことは。活動を通して学んだことは。今の活動を子どもが大人になってしてもらいたいのか。その理由は。

特に、教えるとは何か。豊かになるとはどういうことか。という質問に敬服。

自分の将来を見据え、高い志を持ち続け、学びをさらに積み重ね、国際協力に携わる人になって欲しい。心から期待したい。私にとっても自らを振り返る良い機会になった。



## 日向高校フロンティア科3年生 課題型学習発表会の開催

日向市キャリア教育支援センター  
センター長兼コーディネーター 福島 重義

日向高校においては、主体的に答えのない問題に答えを見出していく力を養成するため、テーマを定めて探究活動を行う「課題型学習」に取り組んでいます。フロンティア科3年生は日向市と包括連携協定を結び、「日向市の魅力を向上させるには」というテーマのもと、1年次より課題型学習に取り組んできました。令和2年7月22日午後、当校体育館にて、2年間という長期にわたる日向市に関する課題研究の発表会がポスターセッション形式にて開催されました。発表会には、十屋日向市長、富井市議会議員、キャリア教育支援センター長が来賓として臨席し、11のブース方式にて研究テーマの成果が報告されました。来賓と1、2年生の下級生が各ブースに分かれて、5タームのポスターセッションに参加し、質疑応答が実施されました。閉会行事にて、来賓より講評があり、2年間の探究活動へのねぎらいと日向市の課題研究に対する成果に絶大なる感謝の言葉がありました。

